



# 柏葉



学校だより 第15号  
令和4年7月8日(金)  
福島県白河市立東北中学校  
発行責任者 校長 渡邊泰昌  
「自分の未来を切り拓け！」

## 白河市青少年育成市民会長賞受賞！



7月4日(月)に白河市青少年健全育成推進大会において大谷香乃さんがみごと会長賞を受賞しました。

大谷さんは、自分の未来を真剣に考え、将来の職業について考えを発表しました。自分のことを自分の言葉で発表したこと、自分の伝えたいことを相手にわかりやすく伝えたことなど、とても良い発表でした。その発表の内容を下に記します。

### 前に進むということ

白河市立東北中学校 三年 大谷 香乃

私の将来の夢は、誇りと使命感をもち、困っている人や助けを求める人々の声に優しく耳を傾けられるような警察官になることです。

私が警察官になろうと思ったきっかけは、警察官の方々の活躍を特集したテレビ番組を見たことです。犯人を必ず捕まえるという強い信念のもと、捜査に打ち込む姿を単純にかっこいいと思いました。

しかし、初めは迷いもありました。女性警察官は、全体の一割ほどと男性の警察官よりも割合が低いこと、また私は身長が低く、腕力も強いほうではないことなど心配なことが多くありました。家族に相談したところ、自らが医療従事者である母からは、看護師を薦められました。警察官よりは危険も少なく、性格にもあっているからという私のことをよく考えたうえでのアドバイスでした。私は「やっぱり無理なのかなあ」と半ばあきらめていました。

そんな中、学校で職業講話が行われました。様々な職業の方々がたくさん来てくださり、働くことの意義ややりがい、嬉しかったことや苦労したことなどを伝えてくださいました。その中には、警察官の方もいらっしゃいました。驚いたのは来てくださったのが女性警察官だったことです。彼女は、自分が警察官であることに誇りと使命感をもち、堂々としていました。今まで女性警察官のお話を聞いたことがなかったので、すごくかっこいいと思いました。身長のことを聞いてみたところ、今は、身長だけであきらめることはないとのことでした。この日から私は、改めて「やっぱり警察官になりたい！」と思うようになりました。

急いで家に帰り母に伝えたところ、やはり看護師を薦められました。母は、先の見えないこの世の中を生きていくための一つの手段として国家資格を取ってほしいという願いを私に伝えてくれました。

そこで私はどうにか自分の夢と、母の願いのどちらもかなえることはできないのかを考えました。そして思いついたのが、看護師国家資格をもった警察官になることです。仮に「看護警察官」と名付けます。なぜなら、調べてみても看護師国家資格をもった警察官に名前がなかったからです。ということは、現在の警察、救急、消防、病院のシステムの中で需要があるかもわかりません。しかし、警察官として医療の知識があれば助けられる人が少しでも増え、困っている人に寄り添うことができるのではないのでしょうか。交番勤務であれば、事故や事件での初期対応に生かされ、緊急指令室勤務であれば、スムーズな医療機関への接続や不安に思っている通報者の心に寄り添うことができるのではないのでしょうか。

母とも何度も話を重ね、今では私の夢を理解し応援してくれています。いつも私の気持ちを大事にしてくれる母には感謝の気持ちでいっぱいです。

もちろんこの道は、そんな甘いものではありません。例えば看護大学に通いながら警察官になるための勉強をするのは、容易なことではないからです。それでも私は、自らの夢と母の願いの両方を叶えるこの道を自分の力で切り開いていくことに人生をかけてみようと思っています。これから先「看護警察官」という言葉を見かけたら私のことを思い出してください。

中学三年生である私は、これから高校受験を控えています。これは、私の目指す看護警察官になるための第一歩だと思います。いつか誰かにかっこいいと思ってもらえるような誇りと使命感をもちた看護警察官に絶対になります。途中でくじけそうになることもあるかもしれませんが母の支えを無駄にせず、決してあきらめないで前に進んでいきたいと思っています。

